

令和5年度 藤枝市子ども未来応援会議 議事録【要約】

日時：令和5年10月4日（水）15時～16時30分

場所：藤枝市役所5階大会議室

主催：藤枝市教育委員会教育政策課

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次代を担う子供たちを健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など16名の委員で構成されています。

今年度の会議では、「藤枝市教育振興行動計画 令和4年度実績」と「第2期藤枝市教育振興基本計画 令和5年度計画」について多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

発言者	発言内容等
委員長	<p>【委員長挨拶】</p> <p>私は、静岡産業大学で、藤枝市が実施する「藤枝市民大学」に関わっているが、応募が多くあり、藤枝市民の教育への関心の高さを日々感じている。そういった教育への関心の高さは、市が行う教育施策の積み重ねによることが大きいのではないかと思う。</p> <p>この会議で出た素晴らしい意見が藤枝市民の教育向上に役立てばと思っているので、皆様からの積極的な発言・提案を期待したい。</p>
事務局	<p>【教育部長挨拶】</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>先ほど、委員長のお話にあった藤枝市民大学については、2年目となる今年も、多くの応募があり、藤枝市民は勉強熱心で学習意欲が高いと感じている。今後も、市民の学び直しのニーズにこたえとともに、学びなおした先の展望まで考え、事業を継続していきたい。</p> <p>学校現場においては、運動会シーズンの10月になったが、まだまだ、暑い日が続くことから熱中症についても気を付けている。また、新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザも流行し、学級閉鎖が見られる状況である。このように子供たちを取り巻く環境に多くの変化がある中で、皆さんから意見をいただくことが、ますます重要になってきている。</p> <p>この「子ども未来応援会議」では、本市が行う教育施策について、必要とされる施策提案や助言をいただける「外部有識者会議」という位置づけを担う組織として、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>まずは、「藤枝市教育振興行動計画 令和4年度実績」について、事務局より説明願う。</p>
事務局	<p>【事務局より「藤枝市教育振興行動計画 令和4年度実績」についての説明】</p> <p>令和4年度をもち終了した藤枝市教育振興行動計画の実績及び成果について説明する。平成30年度から令和4年度までの5か年の後期計画について、16の施策を掲げ、それに紐づく延べ154事業を関係する27課が対応してきた。そのうち97事業におい</p>

ておいては、数値指標を定め施策の推進を図っている。

数値目標のある 97 事業の内 39 事業が目標を達成し、達成率は約 40%となっている。達成率が低調となっているのは、新型コロナウイルス感染症の影響が強く残りイベント等が制限されたことが理由として挙げられる。その中でも目標値を達成した主な 2 つの事業を紹介する。

まず 1 つ目は、ALT が行う課外英語体験活動である「EnglishCamp」。6 月にクイズコンテストや 12 月にはクリスマスパーティーなどのイベントを行っている。H30 年から 5 年間で延べ 1455 人の児童・生徒が参加し、目標値の 1000 人を達成している。

2 つ目は、教職希望者に対し、教職につくことの誇りと気概を育てるための講義や演習等を行う「ふじえだ教師塾」。5 か年すべてで年間 100 人を超え、目標を達成している。このふじえだ教師塾の塾生から教員採用試験合格者数を多数輩出するなど大きな成果を上げている。

ここからは「藤枝市教育振興行動計画 令和 4 年度実績」についてポイントとなる部分を中心に説明する。

目標Ⅰ『市民総がかりで子どもの未来を応援します』

市をあげて子供の教育を推進していくために、地域や家庭、学校が一体となって教育力を高める事業に取り組んでいる。

施策3「学校、交流センターを核に家庭・地域・学校等が一体となって取り組む教育の推進」

令和 3 年度までに市内全 10 中学校区で開始された小中一貫教育・コミュニティ・スクールをさらに浸透させ、「地域とともにある学校づくり」を推進した。

全地区にはそれぞれ地域と学校をつなぐパイプ役としてコミュニティ・スクールディレクターを配置し、分野横断的な活動の総合調整などを行い、「学校運営協議会」の円滑な運営に努めている。

施策4「安心安全な環境づくり」

トイレの洋式化・空調設備の設置を計画的に進める。特に空調設備については、普通教室に続き理科・音楽で使用する特別教室についても設置する。

目標Ⅱ『一人ひとりの子どもに未来を生き抜く力を育てます』

学校教育を中心に、確かな学力の向上をはじめ、社会性の育成や、英語教育、ICT 教育、特別支援教育の充実など、子供の育ちを支援する事業に取り組んでいる。

施策9「創造力・問題解決力の育成」

子供たちの創造力や問題解決力育成のため、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、ロボットアカデミーやペッパーを活用したプログラミング講座、科学教室などを実施した。

ペッパープログラミング講座の受講生が、ソフトバンク主催の全国コンテストに出

場し、全国第2位となる優秀賞を受賞するなど、本市から3チームが受賞している。

施策11「特別支援教育の充実」

近年増加している特別な支援が必要な児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな支援を受けながら学べる環境を整備するため、令和4年度から、集団になじめない生徒の居場所となる「登校支援教室」を全中学校に設置した。個性を尊重し、誰ひとり取り残すことがないように、「登校支援教室指導員」が学習や相談対応など、教室復帰や社会的自立に向けた支援を行っている。

また、特別支援学級を小学校14校、中学校9校に設置、通級指導教室を小学校5校に設置し、一人ひとりの特性に合わせた就学支援を進めている。

さらに、市内全小中学校に「特別支援教育支援員」を配置するほか、コロナ禍による新しい生活様式に対応した「学校生活支援員」の配置、医療的ケアを必要とする児童生徒の安心安全のため看護師免許を有する支援員を「学校看護師」として配置するなど、支援の充実を図っている。

目標Ⅲ「だれでもどこでも学び合う環境を整備します」

世代を超えて様々な人と関わりながら、子供から大人まで、誰もが学びたいことを学べるための事業に取り組んでいる。

施策16「生涯学習・スポーツの振興」

新型コロナ対応がありながらも、地区交流センターや郷土博物館、柏屋などで自主事業が盛んに行われ、生涯学習の機会を提供した。

特に郷土博物館では、体験学習参加者が開館以来初めて1万人の大台に達し、過去最高を記録している。

生涯スポーツでは、体力や年齢に関わらずだれでもが楽しむことができるニュースポーツの普及やスポーツ実施率の低い世代へのスポーツ習慣づくりが行われている。

また、令和4年度より始まった「藤枝市民大学事業」では、一般教養コース・リカレント教育コース・資格取得コースを開設し、“生涯現役・生涯活躍のまち”の推進に向け、幅広い世代の市民に学びの場を提供した。

事前にいただいたご意見に対する回答（教員の働き方改革について）

【質問】

令和4年度の月45時間超の教員数をどのようにとらえているのか伺う。また、ストレスチェックとの整合性について伺う。

【回答】

教職員の残業については、勤怠管理システムにより把握している。令和4年度の残業月45時間超えの教員数は、全体の26.9%で、この数値は令和2年度の34.3%から大きく改善されており、働き方改革の効果が表れていると考えている。

ストレスチェックについては、(株)フジEAPセンターに委託し実施している。残業時間の多い教員を抽出した検証はしていないが、高ストレス者に対しては、希望に応じ

	医師との面談を実施するなど、サポート体制を整えている。
委員長	引き続き「第2期藤枝市教育基本計画 令和5年度計画」について、事務局より説明を願う。
事務局	<p>第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）の概要</p> <p>（1）策定の目的</p> <p>人の自発的な学びの原点である“学びの楽しさ”を表現した「笑顔あふれる教育」というこれまでの基本理念と“人がまちをつくり まちが人を育む”視点を持ち、市民総がかりの取組により、他市町村のモデルとなるような教育環境『学びの環境モデルふじえだ』づくりを通して「教育日本一」を目指し、本市の教育の更なる深化を図ることを目的としている。</p> <p>（2）計画の期間</p> <p>令和5年度から令和12年度までの8年間。藤枝市総合計画の計画期間との整合性を勘案し、前期を3年、後期を5年の計画期間としている。</p> <p>（3）基本理念と目指す姿</p> <p>【基本理念】 豊かな学びで 笑顔をつなぐ</p> <p>多様な人・モノ・コトをつなぎ、豊かで質の高い学びにより人を育み、さらに次世代にもつなげていくことが大切であり、“つなぐ”をテーマとした基本理念を掲げる。</p> <p>【目指す姿】</p> <p>豊かで質の高い学びによる人づくりは、豊かな人生、笑顔、幸せにつながるとともに、人を育てることにとどまらず、成長した人が地域を担い、支え、世代を超えて地域や社会の形成に参画し、地域全体が人を育むという好循環を生み出し、幸せになるまちづくりにつながる。</p> <p>（4）3つの目標</p> <p>「共生（協働）」「自立（自律）」「学びの環境づくり」を柱に3つの目標を設定。</p> <p>～ 共生（協働）～</p> <p>目標1 互いを認め、思いやり、多様な主体が連携・協働する学びの充実</p> <p>～ 自立（自律）～</p> <p>目標2 個が輝き、未来を切り拓く力を育む学びの充実</p> <p>～ 学びの環境づくり～</p> <p>目標3 いつでも どこでも だれでも 学び、活躍できる環境づくり</p> <p>（5）推進体制</p> <p>計画の着実な推進を図るため、継続的に繰り返し、P l a n（企画立案・計画）→D o（実行）→C h e c k（点検・検証）→A c t（反映・改善）のPDCAサイクルにより改善し、事業効果を明確に把握して円滑な推進に努める。</p> <p>計画の進行管理及び評価は、年度ごとに「藤枝市子ども未来応援会議」に進捗状況の報告及び意見聴取を行い、各取組や施策を検証し、計画・施策の見直しなどを行っていく。</p> <p>「第2期藤枝市教育振興基本計画 令和5年度計画」（経過報告）</p> <p>主な事業の令和5年度の進捗について半年を経過した10月までの実績を報告する。</p>

避難所防災設備整備事業（学校施設）

山間部の学校を避難所として使用するために非常用発電設備を整備する「避難所防災設備整備事業（学校施設）」について報告する。

今年度予定する葉梨西北小学校、朝比奈第一小学校への設置工事は6月19日に着手しており、翌年2月29日に完成予定となっている。

また、瀬戸谷小学校、瀬戸谷中学校の設計業務は6月2日に着手し、10月18日に完了する予定。引き続き、国土強靱化計画に位置付けられた山間部の避難所施設となっている学校について、被災時においても機能維持を図れるよう整備を進めていく。

教員の働き方改革に関する取組

教員の働き方改革に関しては、小学校教科担任制の推進や業務の精選等様々なことに取り組んでいるが、「部活動の地域移行」について進捗を報告する。

本市では、文部科学省より示された「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に沿って、エリア制を基本とした合同部活動や市内全体を集約したセントラル方式等を用いて、休日を中心に指導の主体を地域人材へと段階的に移行していくことを目指し、検討を行っている。

現状では、7月より野球部で市内を4つのブロックに分けるエリア制での合同部活動の実施が始まっており、セントラル方式についても女子サッカー部・男子バレー部、柔道部を想定して実施の検討が進んでいる。

特に野球部のエリア制での合同部活動については、実施後の顧問の先生へのアンケートで「それぞれの学校から顧問が参加することで、休日出勤の負担を減らすことができる。」といった意見が出ており、教員の働き方の改善につながる事が予想される。なお、生徒へのアンケートでもエリア部活動に対して肯定的な意見が多く出ている。

生徒の移動に関する安全面の問題やチーム運営への課題も出ているが、他の競技種目のエリア制やセントラル方式の実現に向けて議論を重ねていく。

藤枝市民大学

“生涯現役・生涯活躍のまち”の推進に向け、幅広い世代の社会人に学びの場を提供する藤枝市民大学について報告する。

藤枝市民大学は、令和4年度に開講し、2期目を迎えた。本年度より、開催時期を早め通年制としている。

今年度は、一般教養コース（延べ376名）、リカレント教育コース（延べ102名）、資格取得コース（延べ45名）延べ合計523名という非常に多くの参加をいただいている。

引き続き、市民の多様な学びのニーズに応えるとともに、地域社会・地域経済を担う人づくりを進めていく。

事前にいただいたご意見に対する回答（部活動外部指導者活用事業）

【質問】

部活動指導者の拡充について外部指導者がどの程度集まっていて、今後、外部指導

	<p>者だけで部活動をまわすことができそうか、現状を伺う。</p> <p>また、地域スポーツクラブとの連携がどのように進んでおり、今後進めていくか伺う。</p> <p>【回答】</p> <p>現在、部活動の外部指導者は36人が登録されている。この外部指導者は、大会における顧問としての資格がないため、外部指導者だけで部活動を行うことは難しい状況である。そのため、本市では、単独指導・単独引率が可能な部活動指導員（現在5名）の採用者を増やすことや、エリア制を基本とした合同部活動により複数校から顧問を選出することで、教員一人一人の負担軽減を目指していく。</p> <p>また、地域スポーツクラブについては、部活動の受け皿としての可能性を協議している段階である。まずは、複数の学校が集まって活動する「エリア制・セントラル方式部活動」の実施をすすめ、その次の段階として地域スポーツクラブを含む地域への移行を検討していく。</p> <p>事務局からの説明は以上である。</p>
委員長	<p>全体的なことでも、日ごろからもっと必要ではないかと思っていることがあれば、提案、質問という形でご発言いただきたい。</p>
委員	<p>前計画から新計画に変わっても、大きく理念は変わらず、継続性が見られる。</p> <p>社会が大きく変化するなかで、各事業を年度ごとに区切り評価するやり方は果たして適正なのか、疑問に思っている。また、施策は継続することが大事であるが、一方で柔軟性を持つことも必要である。</p> <p>計画の理念にはないが、「戦争をしない」「差別をしない」ということが大事であり、教育を通じて子供たちに教えてほしい。平和だから議論ができるのであり、このコロナ禍であった差別がなくなるよう、これから8年間の教訓としておいてほしい。</p> <p>教育日本一というフレーズがあり、その数値目標などという話もあるかもしれないが、身近なところからできるようになっていくことを目標とするのもいいのではないか。例えば、調べるにあたりデジタルに頼るのではなく辞書を引くようなことが自然にできる環境を要望したい。</p>
委員	<p>働き方改革で残業が減っているとのことだが、これは先生方が工夫した結果だと思う。この結果を、校長を評価するのか、本人を評価するのか、何か評価できることがあるといい。</p> <p>部活動を指導する資格が2種類（外部指導者・部活動指導員）あるが、どうすればより多くの方が部活動の指導をできるようになるか。部活動を移行させる、地域クラブの数が不足している。</p> <p>教室へのエアコン設置が進んでいるが、体育館にも設置できないか。特に今夏は暑く、屋外での活動は厳しく、体育館に移動してもサウナのような状況であった。設置する準備はできるか。</p>
委員	<p>大学でも様々な活動をしているので、是非利用していただきたい。公開講座も行っており、市民の方にも使っていただければと思っている。本年度から、教員養成課程を開始した。教員も学生も、多くの人と関わりたい。</p> <p>学生に対する教育が難しくなっている。何をやってもすぐ「ハラスメント」と言われ</p>

	<p>てしまい、学生と本気で関わっていないように思う。人間関係が希薄になっている、ともいえる。</p> <p>合理的なことばかりで世の中が進んでいるが、無駄こそ人生なのでは、と思う。藤枝市の事業は多岐にわたっているが、そのなかには「遊び」が感じられ好ましい。</p>
委員	<p>今年の猛暑で、体育は特にきつかった。暑すぎて、プールの授業すら中止にしたケースもあった。また、運動会の練習も十分にできない状況であった。体育館へのクーラーの設置については、莫大な費用が掛かることは承知している。特別教室へのクーラー設置を進めてくれることは非常に感謝している。</p> <p>部活動については、保護者や指導者と話をしている。小中一貫教育に係る専科教員の任用のおかげで、専門性のある教員が来てくれており、学びの質の向上や教員の働き方改革にもつながっており、ありがたい。</p> <p>第2期藤枝市教育振興基本計画に「授業で人を育てる」を大きく取り上げてもらい、非常に感謝している。</p>
委員	<p>「授業で人を育てる」を、紙面を割いて紹介してくれたことに感謝している。口で言うだけでなく、文字で見える形となることで、市としてやっていくという姿勢が見て取れる。</p> <p>前年の会議では、幼児教育・特別支援教育の分野を専門とする委員も同意してくれたが、この「授業で人を育てる」という考え方は、学校教育だけでなく幼児教育・家庭教育・社会教育にも通じるものであると思う。市民全員の合言葉になれば、日本一の教育、本市の特色にもつながっていくのではないかな。</p> <p>数値目標があるが、参加人数だけで成果を見るのではなく、市民の笑顔がどれだけみられたか、たくましく学ぶ姿がどれだけあったかという観点で評価しないとならないのではないかな。</p>
委員	<p>「授業で人を育てる」を、本校（特別支援学校）でも共有したい。市が合言葉として進めていくことは、誰にとってもわかりやすいことだと思う。</p> <p>学校現場は現在人不足であり、また専門性の確保など様々な課題がある。解決のために各自で知恵を出し合っているが、行きつくところは人づくりであると考えている。</p> <p>どの年代にも教育の焦点があるが、人と人がつながることで、市の教育が育っていくものだと思う。共通のフレーズを介して人が豊かになっていくことができる。</p> <p>デジタル技術が進んでいるが、デジタルでは得られないものもあり、それを大事にしたい。</p>
委員	<p>親の立場から、体育館の冷房設置は希望している。子が無事に帰ってくることを常に願っている。</p> <p>学校には勉強をしに行くと思っていたが、様々な取り組みがあり、また環境を整備しており、これからも安心して通学させられると感じた。</p>
委員	<p>保育園では、保育士の勤務時間以上に子供を預かる保育時間があるため、より多くの保育士の確保や要請が必須である。また、質の高い保育が求められている。保育士の確保のために、最近では「保育カフェ」で若い保育士希望者と交流をしているが、参加者は多くない。本市で育った若者が市外、県外に出ていったとしても、戻ってきて今度は教える側にまわってもらえればと思っている。</p>

	<p>保育園でもよい教育を提供することは必要であると思う。</p>
委員	<p>どのような取り組みも体力がなければ進められない。目標の中に、体づくりに関するものを入れてもらってありがたい。</p> <p>れんげじスマイルホールで親子の体チェックを毎年行っている。親が子の特性を再認識する機会になっている。併せて、東京などの理学療法士も勉強しに来る場にもなっている。</p>
委員	<p>今、子が高校生だが、この場にいるような先生方が教えてくれればと思う。勉強以外のことも学校で学んでいってほしい。</p> <p>教育旅行について、令和4年度は取り組みがなかったそうだが、今年度はどうか。</p>
委員	<p>計画に「授業で人を育てる」を入れたのがよかった。人が育つときに、よかったと思うことがある。</p> <p>テレビで、DV やストーカーなどの事件を見聞きするたびに、「なぜこうなるのか」と思う。ストレスをどう解消するか、という考え方を、どこで身につけるのだろうかと考え中、政策の最初に「豊かな心の育成」があり、良かったと思う。</p> <p>ひとつの政策のなかで、複数の課がそれぞれ施策を実施していると、連携が難しい。地域で大人も子供も学ぶ環境を一体的に作っていく工夫をお願いしたい。</p> <p>市民大学での学びの場は、今までも地区交流センターにて提供していた。身近な講習会と市民大学がパイの奪い合いをしないよう、差別化・すみわけをしておかないとまらないのではないかと。明確な位置づけの中での運営を検討していただきたい。</p> <p>体育館の冷房設置については、ランニングコストを低く抑える方法もあるのではないかと。また、体育館は避難所としての機能も有しており、その位置づけから特定財源を持つてくる方法もあるのでは。</p>
委員長	<p>これから、考えたことのないような時代に突入する。高齢化に加えて人口減少が進むという、誰も経験したことのない時代である。だが、長泉町では人口が増加しており、しかも所得が高い方が流入している。その税収が、教育費や医療費に充てられており、好循環を生んでいる。</p> <p>次の時代は教育が重要になる。労働者が高等教育を受けていないと産業が成り立たない。長泉町は医療産業が盛んであるため、東京よりも給料が高く、頭脳労働者が不足している状況となっている。</p> <p>嫌でもこれから高齢化は進んでいく。そういう視点に立つことが必要である。新しい産業がなければ発展がない。</p>
事務局	<p>本日は、様々な角度から多くの意見をいただくことができた。いただいたご意見を計画や今後の教育施策の参考にさせていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>